

令和7年度 現職教育年間計画

犬山市立栗栖小学校

1 本校の研究歴

令和4年度	かかわり合い、自分らしく表出できる児童の育成をめざして -習得した語彙を活用して-
令和5年度	かかわり合い、自分らしく表出できる児童の育成をめざして -「本物になる」くりすっ子を目指して-
令和6年度	かかわり合い、自分らしく表出できる児童の育成 -創造し、繋げることで笑顔となるくりすっ子を目指して-

2 令和7年度の取組について

主体的に考え、判断し、行動するくりすっ子の育成

-つながる・創造する・笑顔になる授業づくりを通して-

(1) 研究主題・目指す児童像の示す意味

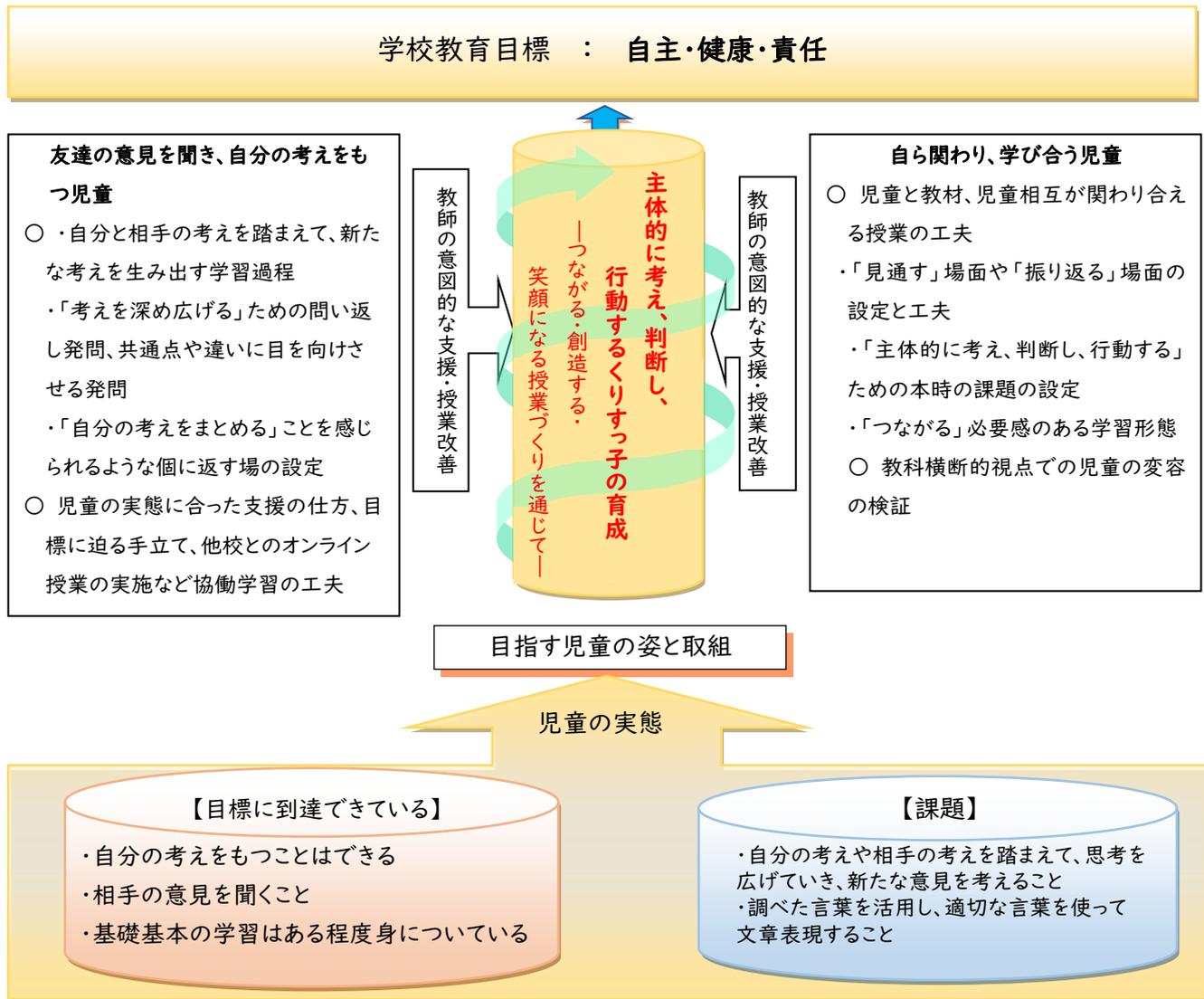
令和6年度の現職教育のふりかえりから、①自ら関わり、学び合う児童②友達の意見を聞き、自分の考えを持つ児童が学校としての課題としてあげられた。そこで本年度は、主体的に考え、判断し、行動する児童を育てていくことを重点に、研究を進めていく。

情報があふれる現代社会において、情報を取捨選択し、自分で考えて判断し、行動する力が求められている。「なんとなく良さそうだから」「みんながそうするから」「なんでもいい」など、その場限りの感情で決めてしまうと、後悔したり、その後の行動に自信が持てなくなったりすると考えられる。

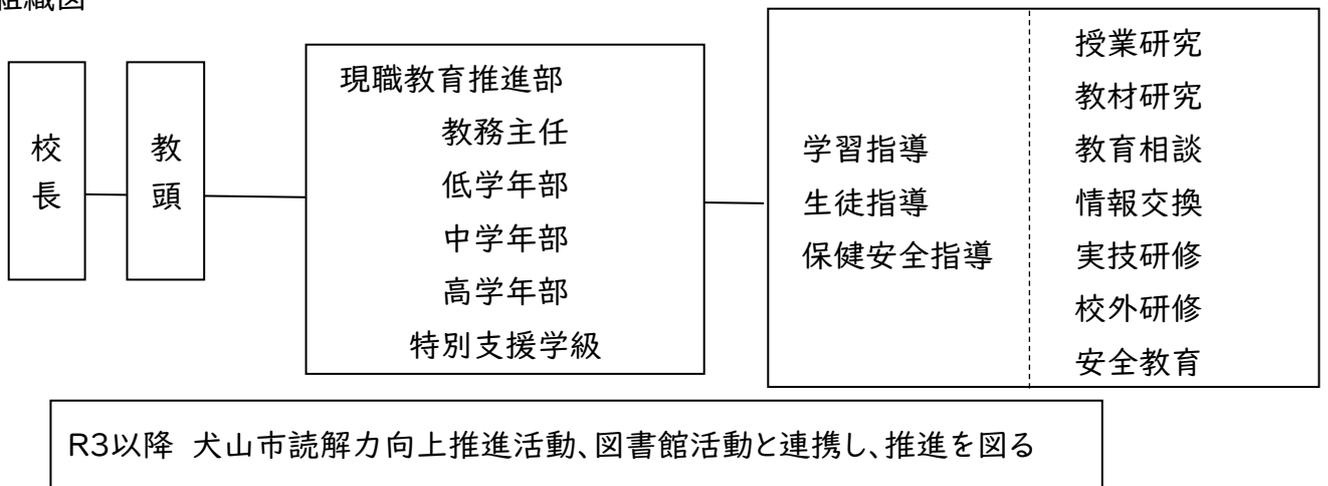
日々の学校生活の中で自ら考え、判断し、行動する経験を積み重ねることで、今後の人生の岐路で迫られる大きな決断をする機会に、少しでも後悔なく対応できるように、自己決定力の意識を高めていきたい。その経験が、目標を達成したときの達成感や自己肯定感、幸福感の高まりにつながると考える。また、一人の力では乗り越えられない問題も、仲間と協働することで乗り越え、新たな価値を創造し、みんなで幸福感を味わうことができる。

児童が自立して自分らしく生きられる土台を作るために、栗栖小学校の小規模を生かした実践を進めていきたいと考える。

3 研究の全体構想



4 組織図



5 本年度の活動

(1) 研究の内容

① 基本的な考え方

それぞれの発達段階に応じて、体験活動を工夫して取り組んでいく。さらに体験発表を行うことで個々の特性に合わせた自己決定する場面を設定していく。

以上を踏まえ、次の3点を中心に研究を進める。

- 主体的に教材や周りに関わり合い、多面的に考え、自己の生き方について考えを深める
学習指導の工夫
- 日常の教育活動やくりすタイムを利用して、自分らしく伝えたいことを伝える力を定着させるための事前事後の指導
- 栗栖カリキュラム(複式)を主とした授業改善

② 研究の方法

- ・児童の実態把握及び目指す子ども像の設定(5月をめどに作成)
- ・低・中・高別に、発達段階を踏まえた目指す子ども像を設定する。
- ・目指す子ども像の実現に向け、授業や学校生活全体で指導・支援を進める。

(2) 学習の効果的指導方法及び評価方法に関する取組

① 考え、議論する授業づくりの効果的な方法・具体的手立て

→ 主体的に教材と関わり、感じ方や考え方を伝え合い、より深く考えられる授業づくり

② 資料の蓄積 →実践した授業資料等を保管する。

③ 評価方法について

→評価方法の工夫、計画的な評価の進め方を話し合い、実践する。

(3) 取組の検証

- ・学習の様子や教材を通して児童の姿や能力の変容を確認する。
- ・新たな課題等、実践へつなげる。

6 現職教育の年間計画

学期	月	現職教育のテーマに関わる研修	その他の研修
前	4	教育目標・研究課題の設定 目指す子ども像検討 研究計画の作成 学級経営方針 学級経営案作成 授業参加、学級懇談会(4/21)	特別支援教育 道徳教育
	5	テーマについての具体的な取組・資料収集 児童実態把握・分析	評価の観点検討 情報教育
	6	授業参加、学校保健委員会(6/7)	情報教育
期	7	要請訪問「算数」6年生(7/7) 要請授業研究の反省・課題の検証と評価 指導と評価 研究内容の分析	
	8	評価規準表の検討	前期通知表検討
	9	令和7年度栗栖小前期通知表の作成 授業研究の反省・課題の検証と評価	特別支援教育 情報教育
後	10	前期の反省 授業研究の反省・課題の検証と評価	情報教育
	11	授業研究の反省・課題の検証と評価	情報教育
	12	学校保健委員会(12/9)	情報教育
	1	学習発表会(1/24)	特別支援教育 情報教育
期	2	研究内容の分析、教育課程・評価規準表完成	情報教育
	3	研究のまとめと反省 令和7年度栗栖小全期通知表の作成 年度末の反省と次年度の計画	情報教育

随時、校内
授業研究
を行う

7 読解力の取り組み

(1) 栗栖小学校の目指す読解力とは

習得した語彙を活用し、それをもとに自分らしく表出する力

(2) 読解力向上を目指した取組

	取組内容
① 語彙を増やす	<ul style="list-style-type: none">・ 言葉の意味を考えたり、意味調べをしたりし、正しい意味を確認し、活用できる力を育てる。・ 読書活動を通して、より言葉に着目する姿勢を育てる。・ 視写や音読を通して、正しい文章に触れる等
② 読んで解く	<ul style="list-style-type: none">・ 文章の中の言葉や謎にじっくりと向き合い、繰り返し問い返しをする中で言葉もつ本当の意味に迫る。(教師の指導が重要)・ 表現や描写を通して、作者や登場人物の心情に迫る。
③ 表現活動の充実	<ul style="list-style-type: none">・ 作文、感想文等において、発達段階に応じた表現を身に付ける指導の充実。・ 見直し、推敲を重ね、適切な表現力の育成を図る。
④ 外部連携	<ul style="list-style-type: none">・ 外部機関と連携し、読解力向上の指導を進める。・ 図書館部会、読解力向上等